

谷川連峰 赤沢山～白毛門

佐貫

【日時】 2011年4月2日(土)～3日(日)

【メンバー】L佐貫、棚橋、北沢

山中で地震に遭って以来3週間振りとなる山行。随分長い間山から遠ざかってしまったような気がした。雪の量もすっかりわからなくなってしまったし、忘れ物の心配もしながら12時2分に水上ICを出ると、周辺には雪のカケラもない。持ってきたスノーシューを隠したくなる。それでも湯檜曾を過ぎると多少雪も出てきてちょっと安心した。

朝になると天気はよく、久々の雪山歩きに気分は浮き立つ。雪も締まっているようだし、スノーシューいらぬよねと車に残して出発し、土合山の家の裏手から斜面に取り付いて2歩、3歩。見た目と違って脛までもぐる締まらない雪だった。スノーシューを取りに戻って仕切り直し、やっと登り始める。ザラメになる前のブカブカの雪に、泊まりの雪山が正月以来となる北沢さんは一苦勞。1150mあたりで尾根が緩くなりやっと一息ついて、稜線散歩という雰囲気になる。赤沢山の山頂にはいくつか手作りっぽいプレートがくくりつけられていた。

さてこれからは東黒沢の流域を左手に見ながら丸山を目指し北上する。松でも杉でもなさそうな針葉樹がたくさん生えているが、一体これは何だろう？と三人で首をひねる。後にヒノキであることが判明、食べられない植物については徹底的に無知なのが情けない…。尾根はそのうち広くゆつたりしたブナの疎林となり、晴天のもとのんびりと雪山を歩けるのは実に幸せなこと



快適な稜線歩き



力作のブロック塀（翌朝の状態）

のだと改めて気づいた。風が少し出てきて、この後夜からさらに強くなるような予報だったので、丸山までの間でどこか風の避けられる場所をテン場にしようかと考えながら歩を更に進める。武能倉沢の源頭近く、丸山の少し南に、全く無風というわけにはいかないがそこそこマシな場所を見つけ、そこでテントを張ることにした。

整地をして、風よけにブロックを積む。三人とも黙々とブロック積み精を出し、いつしか四人のように無言で手足を動かすのみとなる。まるで「塀」のような雪の壁に囲まれたテントは快適で、つまみ合戦や北



沢さんのタイカレーで満腹の夜だった。

強風と冷え込みのため、日曜の朝の雪面はカリカリになっていた。しかし昨日のグサグサ雪はその下にしっかりと残っていて、あんこの柔らかいモナカといったところ。アイゼンを履いて歩き出すと、3人目はふとした拍子にググーッともぐったりする。1495m丸山から白毛門への稜線を見ると、C1526からウツボギ沢へ下る北東尾根のこちら側にはずっと雪庇が出ており、丸山越えからの登り返しがうまいことつながるかちょっと気になった。土曜日の晴天とは打って変わって風も冷たく、空はどんよりとした灰色で冬山に逆戻りの雰囲気である。件の雪庇は無事にかわすことが出来たが、白毛門までは雪が緩むこともなさそうな天気であり、今度は山頂からのやや急な下りが心配になってきた。

ちょこちょこ休みをとりながら山頂に立つ。ガスで視界も良くないので早々に下りにかかるが、すぐ下の鎖場は難なく通過できた。続いてやや斜度のある雪壁をバックステップで下降する。ちょっと高度感があるので北沢さんは怖がるかなと思ったが、細かくステップを刻みそれを使って降りてもらい無事にクリア。下からは次々に登ってくる人の姿。松ノ木沢の頭あたりで天気は大分良くなり、雪が腐りかけてきた。一ノ倉の威圧感ある風景も見えてきて、入山禁止になったとは思えないほどきれいに埋まった沢に驚く。しかし岩壁がすべて黒くなってるのを見ると、沢にデブリがさんざん落ちた後に改めて新雪が降って埋まったのかもしれない。

最後は雪がなくなるかと思いきや、東黒沢にかかる橋のところまで全部雪。更には駐車場までも全面雪の下だった。1月の雪訓の時にはさほど雪が多いとは思わなかったが、3月に低温傾向が続いたのが幸いしたのか、4月とは思えないたっぷりの雪の上を歩くことが出来て良かった。リハビリに、と思って参加者を募ったが、北沢さんのエントリーがなかったら2人で何だかんだ日和ってしまい行かずじまだったかもしれない。山へのきっかけをくれた仲間に感謝。

【地形図】水上、茂倉岳

【行程】

4/2 土合(7:11)～土合再出発(7:35)～赤沢山(11:25/37)～C1(14:20)

4/3 C1(5:45)～白毛門(9:17/22)～土合(13:05)

